

患者の望む術前オリエンテーションにおける看護師の役割

2階西病棟

○ 佐々木 恵美 岡部 愛 野口 早苗 西村 友希
山崎 あゆみ 公文 典子

キーワード：術前オリエンテーション、説明、看護師の役割

I. はじめに

2階西病棟では、緊急時を除く全ての手術患者に対し、「術前オリエンテーション用紙」と「手術患者スケジュール表」を用いて手術の2日前に術前オリエンテーションを実施している。しかし、説明を行っていても、患者と共に確認したことが守られていないこと、説明を行った内容について同等の質問が聞かれる。このため、患者が期待する術前オリエンテーションの必要性を考え、どのような働きかけが求められるのかを明らかにすることが重要であると考えた。

先行研究では、手術前オリエンテーションにおいて、パンフレットを活用しての段階的術前オリエンテーションの効果を検討したものや、手術前オリエンテーションが患者に与える影響について調査を行ったもの、また、患者の手術に対する不安を基に術前オリエンテーションの見直しを行った研究はされているが、患者から直接聞き取り調査を行い、術前オリエンテーションにおける看護師の患者への関わりについて調査した研究はない。

そこで今回、患者に直接聞き取り調査を行い、看護師の術前オリエンテーションにおける患者への関わり方から患者が看護師に何を望んでいるのかを明らかにし、看護師がそれらを受容し実践することが、患者が抱く不安や恐怖を最小限とし効果的な術前オリエンテーションにつながるひとつの方法であると考え、本研究に取り組んだのでここに報告する。

II. 用語の定義

1. 術前とは、「手術する前のこと」とし、術前2日前～手術室搬入までと定義する。
2. 術前オリエンテーションとは、「患者が身体的・精神的・社会的によい状態で手術に臨めるようにし、また、手術前処置や必要物品の準備、飲食の制限、手術後の経過（食事の再開時期・安静度・規制）の内容について説明を行うことで患者が手術を肯定的に受け止められるよう働きかけること」と定義する。

III. 研究方法

1. 対象者

当病棟入院中の婦人科手術施行患者9名（表1）

2. 調査期間

平成16年7月～9月

3. インタビュー時期

手術後5日～7日目

4. データ収集方法

研究枠組みに基づいて、半構成質問紙を作成し面接調査を行った。面接内容は患者に同意を得て、テープレコーダーに録音し面接時間は1人15分～30分程度実施した。

5. データ分析方法

KJ法・インタビューした内容を逐語記録し、抽象化を繰り返す。

表1 アンケート対象者

	年齢	疾患名
A	43	子宮筋腫
B	31	子宮内膜症
C	50	子宮筋腫
D	42	子宮内膜症
E	72	皮様嚢腫(良性)
F	51	子宮筋腫
G	39	右チョコレート嚢腫
H	38	チョコレート嚢腫
I	48	腹膜腫瘍 子宮腔部異形成

IV. 倫理的配慮

対象者の安全性や尊厳・プライバシー・自主性を侵すことがないように対象者が研究により不利益を生じない為の考慮をする。また、倫理的配慮として以下のことを実施する。

1. 研究の趣旨（目的・方法・実施期間等）や対象者にとっての利益・不利益についても説明し事前に同意を得る。
2. インタビューの際、答えたくないことは答えなくて良いことを事前に説明しておく。
3. 協力を同意した後でもいつでも撤回ができることを事前に説明しておく。
4. 研究への参加は自由であり、威圧や強制とられるような行動は避ける。
5. インタビューをした内容をテープに録音する場合は対象者に同意を得る。
6. 研究にて知り得た個人の情報は、研究以外に使用しない。
7. 院内看護研究発表にて研究成果や結果を発表する旨を説明し了承を得る。
8. 研究終了と同時に用いた資料は破棄する。

V. 結果（表2）

《精神的支援》については、具体的に「手術の説明を聞いて、気持ち的に楽に手術が受けられました」という言葉の他に、「安心して手術が受けられました」という意見や、「看護師の印象はとても優しくかったので心が落ち着きました」「優しい声で温和だと思いました」「本当に今まで病院に来た中で看護師もすごく優しいなと思って」など看護師への印象に対する意見も聞かれた。

《個別性に沿った説明》については、「文字も見やすかったです」「年寄りに理解できるようにしてくれた」「分からないものは紙の端に追加して細かく書いてくれました」「綺麗な字で見やすく把握しやすかった」という意見や、「看護師の説明が早く、あまり頭に入りませんでした」「新しいことをいっぺんに聞いたので分かりづらかったです」「未決定の空白が多く、時間などが分かりづらかったです」などの意見も聞かれた。

《受容的に接する》については、「オリエンテーションをした時の疑問や不安な点は聞きやすい雰囲気でした」「初め緊張していたが、看護師さんが笑顔で話しかけてくれ話やすかった」などの言葉が聞かれた。

《手術のイメージ作り》については、「看護師さんが説明してくれた分は想像できたし理解できた」「用紙を見て経過の流れが想像できた」という声が聞かれた他に、「いっぺんに手術前から手術後のことまでを教えてもらい分かりやすくてよかった」「準備物品についての説明を聞いて必要性がイメージできた」「手術とはそんなに大きいものではなくてすぐに動いたりできるんだということや、全体的な流れが分かりました」という声が聞かれた。また、「イメージが作れて安心できた」「自分の中で手術の説明書を見てイメージ作りができました」などの声が聞かれた。

《プライバシーの配慮》については、「プライバシーは一人部屋で守られていた」「プライバシーはちゃんと守られていた」というプライバシーは保護されていたという意見と同時に、「聞かれている内容が人に漏れたら嫌」「人がいない所で説明を受けたい」などの希望も聞かれた。

《時間・時期・場所への配慮》の中で、説明時期については、「説明の紙をもらう時期は、入院前にもらいたかった」「それを資料としてもらって、それでもう一度看護師さんに説明してもらえたら分かりやすかったかな」「手術に行く時間を前もって知りたかった」という言葉が聞かれ、説明時間については、「入院・手術の説明が具体的にどのくらい時間がかかるかを教えてほしい」「看護師さんにちょっと来てくださいと言われ、すぐに終わると思ったら家族を1時間待たせてしまった」「手術の時間がギリギリまで分からなかったから家族に連絡するのに困った」「手術の説明書を見る余裕が無かった」などの意見が聞かれた。説明場所については、「処置室は人の出入りがあったので、病室で受けたら落ち着けた」「部屋みたいは何もないところよりも出入りのある処置室が集中できた」などの言葉も聞かれた。

表2 患者聞き取り調査による結果

ローデータ	小カテゴリー	中カテゴリー	大カテゴリー
<ul style="list-style-type: none"> 手術の説明を聞いて、気持ち的に楽に手術が受けられました 安心して手術が受けられました 看護師の印象はとても良かったので心が落ち着きました 優しい声で温かいなと思いました 接してくれた看護師さんは、好印象でした 本当に今まで病院に来た中で看護師もすごく優しいなと思って 	<ul style="list-style-type: none"> 楽に手術が受けられた 安心して手術が受けられた 看護師が優しく落ち着いた 	安心して楽に手術が受けられた	精神的支援
<ul style="list-style-type: none"> 文字も見やすかったです 年寄りに理解できるようにしてくれた 分からないものは紙の端に追加して細かく書いてくれました 今までそんなに詳しく次の経過について説明とかしてもらったことがない 綺麗な字で見やすく把握しやすかった 	説明書の文字が見やすい	患者に応じた説明	個性性に沿った説明
<ul style="list-style-type: none"> 看護師の説明が早く、あまり頭に入りませんでした 新しいことをいっぺんに聞いたので分かりづかったです 未決定の空白が多く、時間などが分かりづかったです 難しい言葉がいっぱいあって全然わからなかった 	<ul style="list-style-type: none"> あまり頭に入らない いっぺんに聞いたので分かりづかい 未決定で時間が分からない 難しい言葉があって全然わからない 		
<ul style="list-style-type: none"> 手術は初めてではなかったのですが雰囲気は分かっていた 術前オリエンテーションはあるのは自然なこと 悪い病気ではないと聞いていたので、不安はそんなになかったです 	<ul style="list-style-type: none"> 雰囲気は分かっていた オリエンテーションは自然なこと 不安はない 	説明の必要性を感じない	
<ul style="list-style-type: none"> 看護師さんが聞いてくれそうな感じだったので不安や疑問を言い易い雰囲気でした オリエンテーションをした時の疑問や不安な点は聞きやすい雰囲気でした 	<ul style="list-style-type: none"> 言いやすい雰囲気 疑問や不安が聞きやすかった 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師の態度が患者の受け入れに影響を及ぼす 好印象 	受動的に接する
<ul style="list-style-type: none"> 不明な点は聞きやすかったです ことかまなくて説明は聞きやすかったです 初め緊張したが、看護師さんが笑顔で話しかけてくれ話しやすかった 	笑顔で対応してくれ話しやすかった		
<ul style="list-style-type: none"> 看護師さんが説明してくれた分は想像できたり理解できた 用紙を見て経過の流れが想像できた いっぺんに手術前から手術後のことまでを教えてもらい分かりやすくてよかったです 準備物品についての説明を聞いて必要性がイメージできた 詳しく説明を受けて一連の流れが理解できた 手術はそんなに大きなものではなくてすぐに動いたりできるんだということや、全体的な流れが分かりました 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の流れが分かった 手術後の自分がイメージできた 流れが分かった 	看護師のオリエンテーションはイメージ作りに役立つ	手術のイメージ作り
<ul style="list-style-type: none"> 手術自体が初めてだったので手術自体への不安の軽減はなく、大変だと思いました 	手術は大変だと思った	手術を受けざるを得ない状況	
<ul style="list-style-type: none"> プライバシーは一人部屋で守られていた プライバシーはちゃんと守られていた 	プライバシーは守られていた	患者のプライバシーを守る	プライバシーの配慮
<ul style="list-style-type: none"> 聞かれている内容が人に漏れたら嫌 人がいない所で説明を受けた方がいい 	<ul style="list-style-type: none"> 会話が人に漏れたら嫌 人がいない所で説明を受けたい 		
<ul style="list-style-type: none"> 説明の紙をもらう時期は、入院前にもらいたかった 手術が決定した段階で資料をもらってれば、説明内容がもっと分かって心の準備もできたと思う 入院前に手術についての説明内容を教えてもらったら困らなかったなというのがあります 	前もって資料が欲しい	説明時期への配慮	
<ul style="list-style-type: none"> それを資料としてもらって、それでもう一度看護師さんに説明してもらえたらわかりやすかったかな 手術に行く時間を前もって知りたかった 	<ul style="list-style-type: none"> 一度資料に目を通した後で、説明を受けたかった もっと前に資料が欲しかった 		
<ul style="list-style-type: none"> 入院、手術の説明が具体的にどのくらい時間がかかるかを教えて欲しい 手術前にはしなければならぬことがいっぱいあるので、大変だなと思った 自分が思っていた以上に手術を受けることや、準備も大変だなというのが説明を受けて思った 	<ul style="list-style-type: none"> 説明にかかる時間を知りたかった いっぱいしないといけないことがあって大変 手術を受けること、準備が大変 	説明時間への配慮	時間・時期・場所への配慮
<ul style="list-style-type: none"> 看護師さんによちよち来てくださるといわれ、すぐに終わると思ったら家族を一時間待たせてしまった 	説明が長かった		
<ul style="list-style-type: none"> 時間がちよつと短いかなと思った 手術の時間がギリギリまで分からなかったから、家族に連絡するのに困った 	<ul style="list-style-type: none"> 説明の時間が短い 連絡に困った 		
<ul style="list-style-type: none"> 説明書を見る時間が無かった 	余裕なし		
<ul style="list-style-type: none"> 処置室は人の出入りがあったので、病室で受けたら落ち着けた 部屋みたいにも何もないところよりも出入りのある処置室が集中できた 	<ul style="list-style-type: none"> 出入りのない病室で受けたい 出入りのある処置室で受けたい 	説明場所への配慮	

VI. 考察

術前オリエンテーションの場面において、看護師に求められる役割として結果で述べた6つのカテゴリーが抽出され、これらを基に患者に関わることで患者の思いや希望に沿った効果的なオリエンテーションに繋がることが分かった。

《精神的支援》については、「楽に手術が受けられた」「安心して手術が受けられた」などの言葉が聞かれた。

このことから、オリエンテーションという1つの患者—看護師間でのコミュニケーションが手術前に抱く不安・恐怖・苦痛や葛藤といった患者の感情表出の1つの場となり、看護師が患者の気持ちを共感・サポートし、前向きに手術を捉えるきっかけになったと考える。また、「不安の軽減はない」「大変」「漠然とした不安」という意見から、患者が目の前にある手術や手術後に対する不安を軽減できないまま手術に臨んでいたことが分かった。

次に、《個別性に沿った説明》では、「説明書の文字が見やすい」「綺麗な字で見やすく把握しやすかった」という意見と、「説明が早かった」「難しい言葉があつて全然分からない」「いっぺんに聞いたので分かりづらい」という2つの対照的な意見が挙げられた。また、「手術は初めてではなかったので雰囲気は分かっていた」「術前オリエンテーションは自然なこと」「悪い病気ではないと聞いていたので、不安はそんなになかったです」などの意見が聞かれたことから、オリエンテーションの説明の受けとり方が対象者により様々であることが分かった。これは、患者のもつ特殊性に沿った説明が不十分であったことや、看護師の経験年数や説明の方法の違いが影響していたと考える。森田は、「医療従事者はよく理解できる言葉で説明したつもりでも、未知の手術に対する不安と緊張のなかで聞いたことなので理解できていない場合もある¹⁾」と述べている。そのため看護師は、患者のデータベースを基に説明内容や方法を工夫すること、患者の反応を意図的に把握・アセスメントしながら説明を行う必要がある。

《受容的に接する》では、「疑問や不安が聞きやすかった」「言いやすい雰囲気」「話しやすかった」という看護師に対し好印象ととれる意見が多く聞かれた。森田は、「看護師は常に患者の擁護者であるという温かな気持ちで、受容的に患者のあるがままの気持ちを聞き取るよう接する。そのことによって患者は不満の状態から満足の方向へと反応を変えていくことが可能になる¹⁾」と述べている。これは、「手術」という予測できない事柄に対して、さまざまな心情で揺れ動く患者に、全てを受け入れる・聞き入れるという看護師の姿勢が患者に安らぎや優しさをもたらしたのではないかと考える。

また、《手術のイメージ作り》については、「説明を聞いて手術後のイメージが作れた」「手術後の経過が分かりやすかった」という意見が多く聞かれた他に、「心の準備ができた」「前もって知る事は大事」「手術自体が初めてだったので手術自体への不安の軽減は無く、大変だなと思いました」という意見も聞かれた。今回、インタビューを行った患者は手術未経験者が多く、過緊張の中でただ用紙に目を通すだけでは手術のイメージばかりか、内容を理解することも難しいと思われる。手術の流れを把握している看護師と、手術前日から退院までの経過を共に確認していくことで、安心感や心に落ち着きを取り戻し、言葉の理解や手術の経過を把握することができ、イメージを作りやすい環境がつけられたのではないかと考える。このことから、以前は患者が説明を受け、それを聞くだけという受身の状態から、自分の意思を主張し医療を選択できる場という変化に伴い、術前オリエンテーションにおいても、ただ用紙に目を通すだけでなく、具体的に知ることや患者がイメージしやすいように介入することなどが看護師に求められる時代へと変化していると考えられ、術前オリエンテーションに必要な要素の1つであることが分かった。

《プライバシーの配慮》では、「守られていた」という言葉が多く聞かれた。人は時に見られたくない、聞かれたくない、触れられたくないと感じることがある。特に女性器の手術を行う当科では、患者が時には不快と感じる情報が必要となり、同性として感情を共感しやすいことから、患者の立場に立つことで説明時の声の大きさ・表情・場所への配慮が行っていたのではないかと考える。

次に、《時間・時期・場所への配慮》であるが、ここでは「もっと前に知りたかった」「早い時期に資料がほしかった」「一度資料に目を通した後で説明を受けたかった」「手術や準備が大変」「説明の時間が短い」「出入りのない病室で説明を受けたい」など、看護師への要望が多く聞かれた。病棟では、手術2日前の入院が多い為、術前オリエンテーションの時期は入院当日とほぼ決まっている。しかし、患者から「もっと早い時期に資料がほしかった。」という反応が聞かれたことから、今後、患者に術前オリエンテーションを行う時期を見直していく必要があるのではないかと考えた。また、オリエンテーションの時に「手術の時間が早く知りたかった」という意見が、特に午後搬入時間未定の患者から多く聞かれた。実際に、搬入の1時間前や前投薬内服直前に連絡が入ることが多く、手術を前に緊張と不安を抱えながら連絡を待つ患者や家族の感じる苦痛も大きいと思われる。それだけでなく手術当日の場合、早朝より浣腸や前投薬内服などの諸処置を受けなければならず、時刻に縛られ慌ただしく動く看護師の雰囲気などから、患者の緊張は高まっていると考える。これに対

し看護師は、時間が決定しない理由を患者や家族に前もって伝え、了解を得ておくことが大切である。術前は、患者や家族にとって大きな不安と緊張を強いられる時である。面会などで患者と直接顔を合わせ言葉を交わすことによって、その不安や緊張を軽減させることが可能である。その為、家族や友人など心理的支えとなる人に傍にいてもらえるように配慮することが重要である。また、術前オリエンテーションの所要時間は実際の現場において約10分～30分であり、その間に患者の心理状況を捉え、アセスメントし関わることは難しい。しかし、在院日数の短縮している中で看護の質を高めていくことが求められる今日では、瞬時に患者のニーズや状況を捉えることが看護の前提にあり、必要不可欠であると考ええる。

今回の患者へのインタビューを通して抽出できた、《精神的支援》や《プライバシーの配慮》《受容的に接する》ことの重要性については、森田も述べている。しかし、《手術のイメージ作り》や、《時間・時期・場所への配慮》については新たなカテゴリーとして抽出することができた。今回このような患者からの生の声が聞けたことで、今後、看護師に求められる術前オリエンテーションの方向づけができた。また、患者の声に忠実となり改善していくことが、患者の思いに沿った手術前オリエンテーションを実施していくことにつながると考える。

Ⅶ. 結論

1. 術前オリエンテーションにおける患者が期待する看護師の役割として、《精神的支援》《個別性に沿った説明》《受容的に接する》《手術のイメージ作り》《プライバシーの配慮》《時間・時期・場所への配慮》が抽出された。
2. 術前オリエンテーションにおける看護師の役割としては、《手術のイメージ作り》《時間・時期への配慮》が1番多く聞かれた意見であると同時に、患者にとっては重要視される項目であることが分かった。

Ⅷ. 終わりに

今回の研究は対象者が9名と少なく、婦人科病棟患者であることから、女性のみを対象となった。また、研究者の面接技術と分析能力未熟さという研究の限界があった。しかし患者側からみた術前オリエンテーションにおける看護師の役割について知ることができたので、今後はこの結果を日々の看護に活かしていきたいと考えている。

引用・参考文献

- 1) 森田孝子：周手術期看護，学習研究社，5-8，2003.
- 2) 高森スミ他：フローチャート式系統別外科的治療を受ける患者の看護，学習研究社，1984.
- 3) 長谷川浩：対人関係に学ぶ看護 トラベルビー看護論の展開，医学書院，1984.
- 4) 三浦瞳他編：患者が術後の体験を受け入れられるようにかかわるコツ 看護のコツと落とし穴，中山書店，2000.
- 5) 雄西智恵美：周手術期にある患者・家族，臨床看護，28(6)，36-38，1995.
- 6) 武山美智子：患者教育のポイント アセスメントから評価まで，医学書院，1994.
- 7) 神郡博他：患者の訴え その聴き方と応え方，医学書院，1988.
- 8) アーネスティンウィーデンバッグ他：コミュニケーション 効果的な看護を展開する鍵，日本看護協会出版会，1979.
- 9) 大川貴子：“看護者の行為”に対する患者の認知～リハビリテーション病棟に入院している脳血管障害患者に焦点をあてて～，医学書院，1995.
- 10) 内布敦子他：看護ケアの質の要素の抽出～デルファイ法を用いて～，医学書院，1994.
- 11) 川野雅資他：患者の満足度を高めるケアの方策 - クリティカルケアの事例をもとに - ，星和書店，1999.
- 12) 近澤範子：看護ケアの質の評価に関する文献検討，医学書院，1994.
- 13) 浜野恭一他：看護必携シリーズ第5巻外科I，周手術期の看護，学習研究社，1996.